

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

標葉 靖子 (実践女子大学 人間社会学部 准教授)

2. 課題名

FemTech (フェムテック) の ELSI 検討に関する企画調査

3. 実施期間

2022(令和4)年10月1日 ~ 2023(令和5)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、FemTech (フェムテック) に関する ELSI、さらには、市場原理で社会課題の解決を図ろうとする科学技術・イノベーションが進む現状において、ジェンダーや多様性の包摂が社会的アジェンダとして尊重されるために必要な ELSI/RRI 実践への道筋、さらには根源的問いの探求にもつながり得る論点の整理を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、新興科学技術の ELSI/RRI 研究としての研究開発構想の具体化、フェムテックという概念自体の課題の検討、研究開発のスコープの拡張、法制度的課題へのアプローチ方法とそれを実施するための体制構築などの点を期待した。

企画調査の結果、フェムテックに留まらず、より包括的な議論につなげることで、ジェンダード・イノベーションや多様性の包摂の範囲まで広げた解析ができており、フェムテック、フェムケア、ジェンダード・イノベーションといった概念をめぐる関係と現状の分析については期待されていた要求に応える水準のものになっている。また、フェムテックがカバーする範囲についても、メディアや社会がどのように捉えているのかを言語調査・アンケートによって明確にした点や、起業者側からの捉え方について調査している点も評価できる。

一方で、フェムテックをめぐる広範囲で重要な問題を、構造的に整理し論点を定める必要がある。また、ジェンダーや多様性の包摂が社会的アジェンダとして尊重されるために必要な ELSI/RRI 実践に向けた道筋の整理については、さらなる検討が求められる。加えて、フェムテックを入り口としたジェンダー研究にとどまるのではなく、フェムテック「技術」に発生する ELSI 課題の抽出が必要だが、この点についても課題が残る。

今後は、上記の課題に対応しつつ、研究の国際性の強化、法的 (Legal) な観点からの解析の強化も視座に入れ、法的検討や国際的な展開を強化する体制についても検討したうえで、充実したプロジェクト提案につなげることを期待している。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は2023年5月末時点)